ダムの役割って何？　緊急放流って何？

県で管理する多目的ダムは、普段は「利水」として利用する水を貯めて、大雨が降ると「治水」として洪水調節をしています。

①治水【水を調節する】

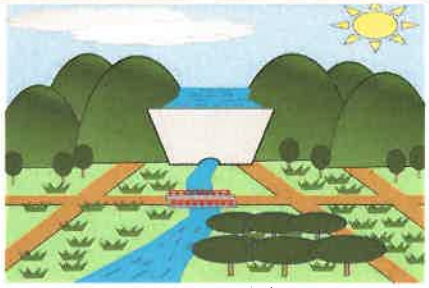
ダムの周辺で大雨が降った場合、その水が集まってダムに流れ込んで来ます。ダムでは、この水を一時的に集め下流には調節した量を流しています。これを「洪水調節」といいます。

ダムが無いと・・・

ダムがあると・・・

②利水【水を利用する】

それぞれのダムは、利用目的を決めて水を貯めています。



●家庭用、工業用の水道に使う
ダムに貯めた水は、水道水や工業用水として利用してます。

●農業に利用する（かんがい用水）
ダムに貯めた水を、田んぼや畑で利用しています。

●川を守る
日照りが続くと川の水が少なくなります。ダムに貯めた水を一定量流して、川の水質や川に住む生物などの環境保護を行っています。

●電気を作る
水を貯めることで落差ができるので、この落差を利用し電気を作っています。

異常洪水時防災操作【緊急放流】とは？
（ダムの計画規模を超える洪水となった場合）

異常な豪雨によりたくさんの水がダムに流れ込んできた場合、最初は下流へ流す量を調整し影響を最小限にして、みなさんの避難する時間を確保しています。しかし、ダムに貯める量が限界（満杯）に近づいた場合は、降った雨を貯めることなく、そのまま下流に流す【緊急放流】を実施することになります。【緊急放流】は、ダムに貯めていた水を一気に流すことではありません。

緊急放流前には、関係機関（市町村等）と報道機関にお知らせするとともに、地域の皆さんにはサイレン等で情報発信しています。

令和５年７月豪雨では、旭川ダムと岩見ダムで緊急放流を実施しました。過去の実績で、総雨量、貯留量とも第１位と、記録的な雨であったことがわかります。

緊急放流はダムの無い状態になること